

トマトのトマトキバガ（新発生）

令和5年8月下旬渡島地方の施設栽培トマト（品種「れおん」、夏秋どり作型）において、葉の内部が食害され薄皮状となるとともに、果実は表面が食害され、穿孔するなどの被害が確認された。羽化した成虫から、植物防疫法に規定された侵入警戒有害動植物の一種であるトマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick) と同定した。成虫は体長5～7mm、前翅長約5mm、開張約10mmの小型の蛾で、前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は淡黒褐色である。幼虫は終齢で体長約8mm、体色は淡緑色から淡赤白色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

被害の確認に先立ち、侵入調査用のフェロモントラップでは6月下旬に渡島地方や石狩地方で成虫の飛来が確認され、7月以降空知、後志、胆振、オホーツク、十勝、釧路地方など各地で確認されていた。

本種は、トマト、ばれいしょ、なすなどナス科作物やマメ科のいんげんまめを食害する。トマトの葉を食害されると、食害部分は表面を残して薄皮状となり、白～褐変した状態となる。果実では、幼虫が穿孔食入するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに腐敗し、果実品質が著しく低下する。発生が認められた場合は薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、土中に埋没させるまたは密閉して死滅させるなど適切に処分する。

（道南農試、中央農試、十勝農試、北見農試、病害虫防除所、横浜植物防疫所）



左：トラップに捕獲されたトマトキバガ成虫、右：トマトキバガ幼虫（道南農試 原図）



トマトキバガによるトマトの食害（道南農試 松原 原図）